

十勝川中流部市民協働会議_活動記録 (6)

帯工環境土木科 3 年生による自主研究

テーマ：光南地区水辺の楽校における流木の腐朽について (1 回目)

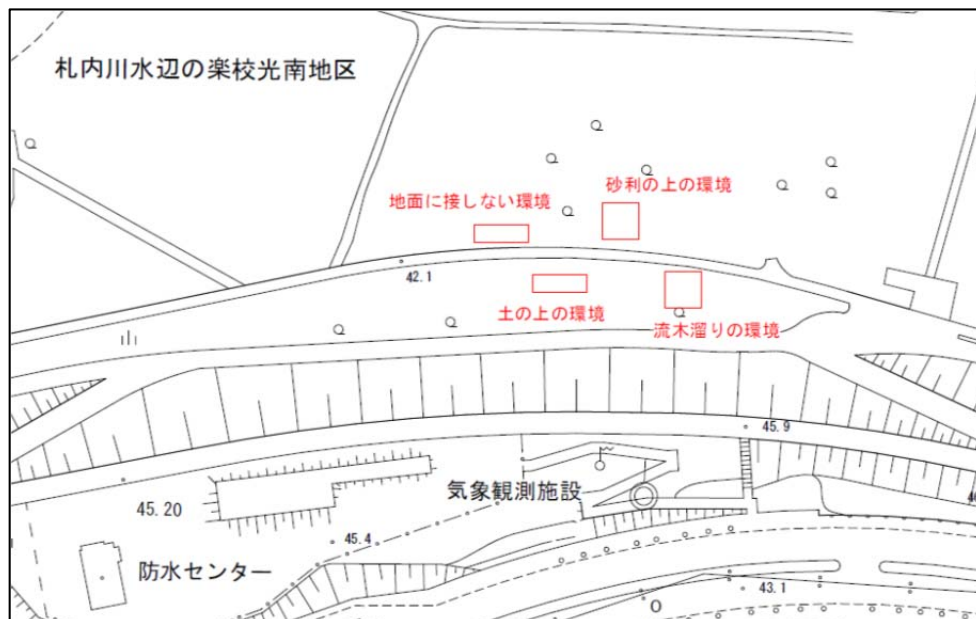
この活動は、平成 29 年度から始まり、今年が 2 年目の活動になります。

帯広工業高等学校環境土木科 3 年生の有志 3 名により、H28 に発生した洪水被害による大量の流木について、流木の産廃処理を行わなくても、時間の経過とともに流木が自然に戻るまでの過程を調査したいとの志を受け、その活動に対して支援を行うものです。



今年の活動を行う環境土木科 3 年生の 3 名

- 日 時：平成 30 年 6 月 10 日 (表) 9:00~12:00
- 参加者：帯広工業高等学校 環境土木科 3 名+教諭 1 名
十勝川中流部市民協働会議事務局 6 名
- 場所：札内川左岸 光南地区 水辺の楽校
札内川光南地区 防災ステーション 9:00 集合
- 調査内容：硬度計測 (針による貫入試験) と水分計測 (含水比測定)



調査箇所図

活動支援内容：硬度計測（針による貫入試験）と水分計測（含水比測定）

調査は、木材の放置環境の違いによる腐朽速度を把握するため、昨年のデータと比較することを目的に、

- ①木材の水分量（含水比）の計測
- ②硬度計針貫入試験による木材硬度の計測

これら、継続的な調査によって、流木が腐朽（朽ちる）し、土に戻るまでの様子を記録することで、将来の河川維持管理に役立てられる貴重な資料になるものと考え、十中協はこの活動を支援していきます。



水分量の計測風景



硬度計の貫入試験の様子

[調査個所：土の上の環境]

放置環境は、流木と生木を土中の半分程度埋め込んだ状態で放置し、腐朽速度を観察していきます。



昨年環境



今年環境

[調査箇所：地面に接していない環境]

放置環境は、直接地面に接しないように枕木の上に放置したものと流木が堆積している上に放置した状況で調査していきます。



昨年の環境



今年的环境

[調査箇所：砂利の上の環境]

放置環境は、石原の上に放置した状況で調査していきます。



昨年の環境



今年的环境

[調査箇所：流木溜まりの環境]

調査箇所は、流木や細かい枝などが堆積した場所に放置した状況で調査します。



年の環境



今年的环境

作業風景写真



作業開始前に作業手順を説明する穴戸氏



記録の仕方を指導する前田氏。



水分量を測定する様子



硬度計の貫入試験の様子



水分量を測定している様子



硬度計の貫入試験の様子